

## 【資料】

# 口腔医学を取り入れた看護学教育実践のためのFD研修に関する報告 Report on Faculty Development Training for Nursing Education Practices: Incorporating Oral Medicine

宮園真美 飯野英親 大久保つや子 嶋田 香 岩本利恵 村田節子 中島富有子  
倉成由美 三好麻紀 町島希美絵 宮坂啓子 秋永和之  
福岡看護大学 看護学部看護学科

## 抄 録

本学が提唱する「口腔医学を取り入れた看護学教育実践」を教育の現場で効果的に実践するために、FD委員会では、計画的にFaculty Development (FD)研修を行ってきた。

FD活動は、教育の質的改善や人材育成のための重要なツールであり、その成果を可視化し、教員全体で共有することによって実践に活用される。本学の目指す「口腔医学を取り入れた看護学教育実践」のためには、教員が一枚岩になって同じ目標に向かう必要があり、FD研修はそれを実現するために不可欠なものとなっている。

ここでは、「口腔医学を取り入れた看護学教育実践」をテーマとした3回分のFD研修の内容とその評価を報告し、今後の教育への課題を明らかにする。

キーワード：口腔医学 FD研修 看護学教育実践 看護教育 口腔ケア教育の実践

## 緒 言

本学のFaculty Development (以降FD)委員会は、平成29年本学の開学と同年度に設置された。本学は、ディプロマポリシーの一つに「対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる」ことを掲げており、口腔と全身との関連性を理解した上で、口腔機能の維持・回復にとどまらず、全身の健康支援やQOLの向上に貢献できる実践能力を有する看護専門職の育成を、1年生から4年生の在学中に系統立てて計画的に教育している。

全分野の各科目においては、それぞれの特色を活かした口腔から全身への健康に関する教育がなされ、シラバスへも明記されている。本論では、開学から3年目を迎えた現在、これまでの「口腔医学を

取り入れた看護学教育実践」をテーマにしたFD研修を中心に振り返り、今後への課題を明らかにする。

目的：「口腔医学を取り入れた看護学教育実践」をテーマとしたFD研修全3回を振り返り、課題を明らかにする。

## 研修の概要

令和元年度から現在までのFD研修のテーマより、「口腔医学を取り入れた看護学教育実践」をテーマにしたFD研修を抜粋し一覧を表1に示した。

表1 FD 研修計画 (令和元年度、令和2年度)

年度	テーマ	内容	実施日 (予定)	方法
令和元年度	口腔医学を取り入れた看護学教育実践の現状と課題の明確化について	本学の目指す口腔医学を取り入れた新しい看護学の教授について、現状と課題を明らかにする。	1月23日	講義 ディスカッション
令和2年度	口腔から全身の健康を目指す本学の教育評価 (課題解決への方略)	本学の目指す口腔医学を取り入れた新しい看護学の教授について、課題解決に向けた教育方略を検討する。	6月24日	講義 ディスカッション
	口腔から全身の健康を目指す本学の教育評価 (実践の評価)	本学の目指す口腔医学を取り入れた新しい看護学の教授について、実践内容を評価・検討する。	1月28日	講義 ディスカッション

「口腔医学を取り入れた看護学教育実践」をテーマにしたFD研修は、令和元年1月23日に第1回目、令和2年6月24日に第2回目を実施し、令和3年1月28日に第3回目を実施予定である(図1)。

倫理的配慮として、FD委員会委員の承諾を得たうえで、研修担当者や参加者の意見内容が損なわれないように分析した。

### 研修の内容

#### 1. 研修の目的

「口腔医学を取り入れた看護学教育実践」をテーマにしたFD研修全3回の研修の目的は次の図の通りである。

本学は、平成29年の開学以前から「口腔医学を取り入れた看護学教育実践」を目指して数々の研修を実施してきた背景があるため、第1回で、「口腔医学を取り入れた看護学教育実践」の評価まで実施しようと計画していたが、FD委員会会議で、まず全教員によって現状と課題の共通確認を行う必要があるという結論に達し、第1回目は「現状把握と課題の明確化」をテーマに研修を行った。

次に、第2回目の研修で「課題解決の方略」を話し合い、最後に「実践の評価」を目的に設定し、研

修を進めることとした。

#### 2. 研修方法

いずれも、研修方法はディスカッション方式とし、全教員が話し合いに参加できるように事前のグループ分けおよび時間配分を行った。

FD研修の時間は、約1時間程度しか確保できないことが多く、ディスカッションを効果的に行うためには、事前に詳細な計画を立てる必要があった。

時間内に効果的に話し合いをするために、事前に各分野が準備した発表内容を配布しておき、FD研修当日には資料に目を通してから臨むようにした(資料1)。

#### 3. 研修の結果(課題と方略)

第1回FD研修で明らかとなった現状や課題に対しての方略が、第2回FD研修において話し合われた。ここに、課題(◆)と方略(⇒)を示す(抜粋)。

##### ◆分野間での教育の重複について

⇒教育内容の重複については、第1回FD研修で明らかとなったためこの結果を基にして教育計画を修正する。また、マトリックスによって教育内容を確認する。

##### ◆領域特有の教育の困難さについて

⇒精神看護学分野では、臨床実習で患者によって口腔内を観察できない人もいる。観察できない患者は

口腔ケアも行えない。受け持ち患者以外では行えないため、その場合は学内の演習等で行う。また、そのためのビデオ等の教材がないので、自分たちで作成するなどの必要がある。

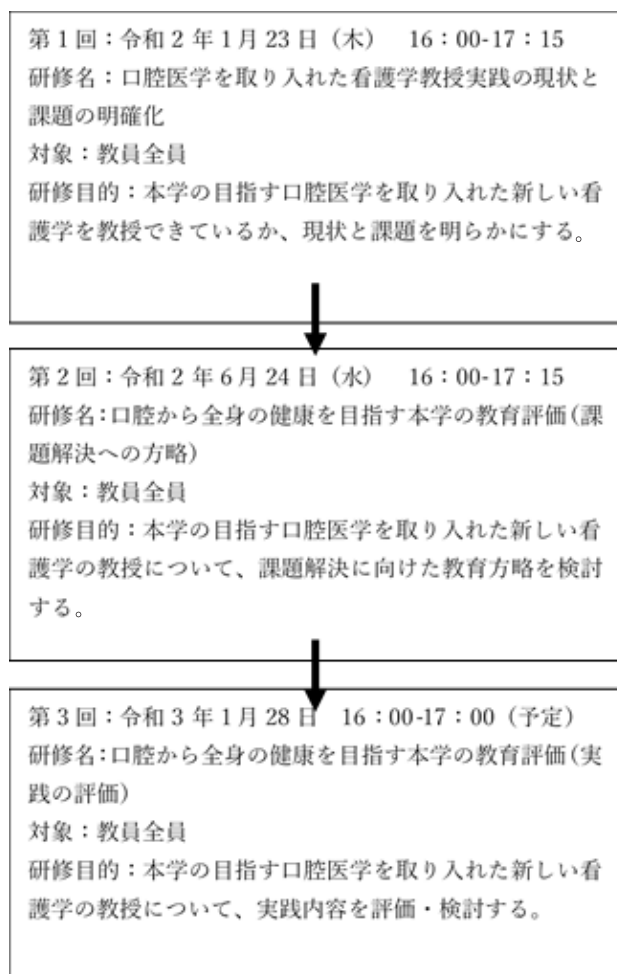


図1 「口腔医学を取り入れた看護学教育実践」をテーマにしたFD研修全3回の研修名と目的

また、精神看護学分野では、精神疾患を持つ患者の口腔ケアへの理解を促すため、いかに理解してもらえるか考えさせ、教育指導を行っている。パンフレットを媒体として指導する。また、唾液腺マッサージの指導も行っている。

◆器質的口腔ケアは、分野別に対象に応じた口腔ケアとして実施されているが、機能的口腔ケアが不足していることについて

⇒基礎看護学分野では、食事介助などの基礎的看護技術を伝授するため、唾液分泌機能のアセスメントや食前の唾液分泌促進方法を行っている。

⇒高齢者看護学分野では、嚥下機能低下を持つ対象が多いため、機能的な口腔ケアを教授する機会が多

い。これらの機会を逃さずに脱感作や嚥下体操などの教授も行うようにしている。

⇒成人看護学分野では、リハビリテーション関連の病棟では、看護師の嚥下リハビリテーションの実際的なケアを学んでいる。

◆学習の順序性や整合性について

⇒口腔健康科学論の講義で、摂食嚥下認定看護師、短大の歯科衛生士の教授の講義があるが、（高齢者の口腔ケアをする）高齢者看護学分野の演習と同時期にあるため、口腔健康科学論の演習の後に、高齢者看護学分野の講義・演習を配置するなどの工夫をしている。また、教員も口腔健康科学論の講義を見学し、そこで学んだ必要なことを講義・演習に取り入れるようにしている。

⇒口腔に特化した専門教科は、1年；健康と食生活、2年；口腔健康科学論、4年；口腔機能援助論と配置しているため、それらの時間と整合させた講義の組み立てが必要である。

◆学部で行う口腔ケア教育のゴールについて

⇒互いの領域間、教員間のコンセンサスを得ることが重要である。そのためにも、口腔における看護に関して行っている講義・演習・実習に関して、4年間の評価を行い、共有する。

◆実習における方略について意見交換が十分にできていないことについて

⇒小児看護学の実習では、学生がパンフレットを作成し、子どもへ説明することはできるが、母親の家庭内教育の評価と受け止められることがあるため、実践が難しい。母親の受け止め方も様々であるので、学生のコミュニケーション力では難しい。口腔ケアに関するビデオ教材がないこと、イメージも持たせにくい。学部教育で指導力を育むことが必要である。

⇒現場看護師の口腔ケアへの意識を底上げするなどの教育を継続していく。

⇒今後、各領域実習での口腔ケア実践についてもFD研修において評価をする。

#### 4. 研修実践の評価

本研修では、毎回それぞれのテーマに沿ったアンケートを作成し、研修前後の点数を参加者全員が5段階評価で評価し数値化している。ここでは、第2

回FD研修「課題解決への方略」実施前後の教員アンケート（自由記載を含む）結果を抜粋し下記に示す（○内は平均点）。

\*ディスカッションのみで終わると消化不良な印象

### 5. 自身の分野と他分野の「口腔医学を取り入れた看護学教育の課題」の教授方法の整合性

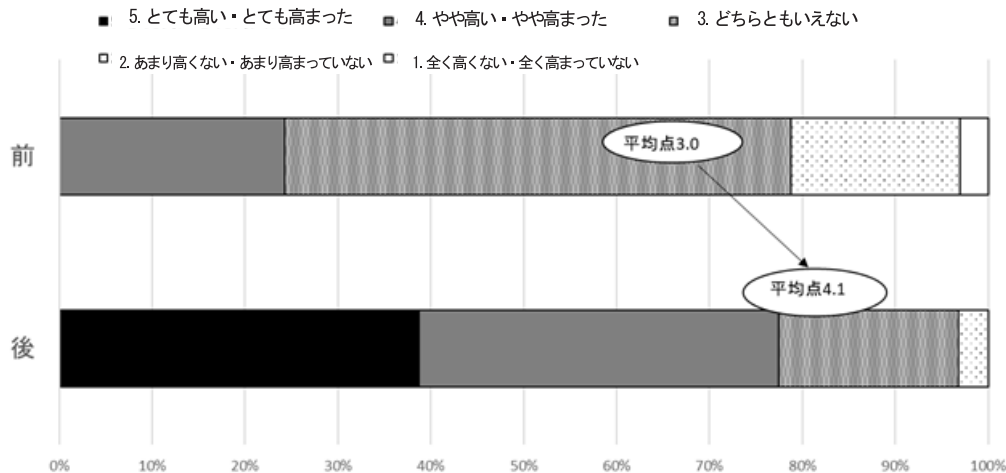


図2 自分の分野と他分野の「口腔医学を取り入れた看護学教授の課題」実践に関する整合性への理解点数

### 6. 自身の分野の「口腔医学を取り入れた看護学教育の課題」解決に向けた方略の評価方法

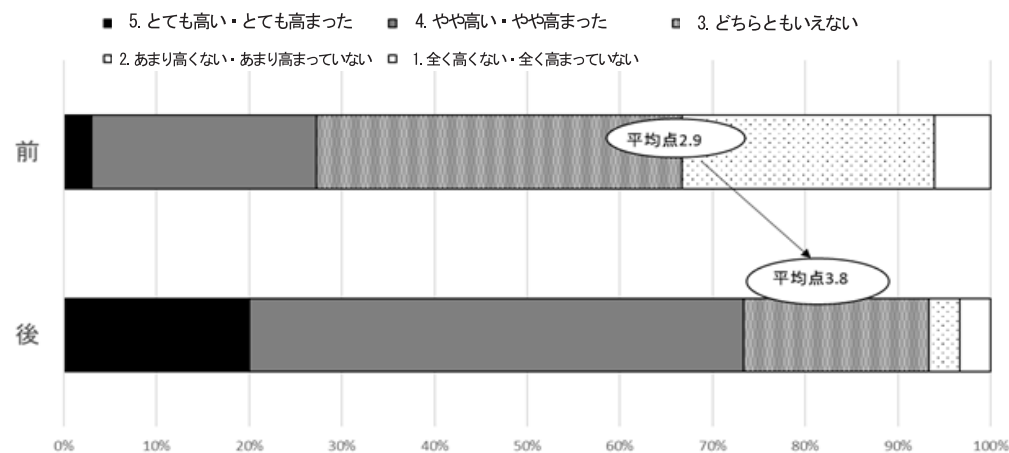


図3 自分自身の口腔医学を取り入れた看護学教授実践に関する方略、評価方法の理解点数

- 1) 他分野との口腔医学を取り入れた看護学教授実践に関する整合性の理解点数が研修前(3.0点)から研修後(4.1点)へ上昇した(図2)。
- 2) 自分自身の口腔医学を取り入れた看護学教授実践に関する方略の評価方法に関する理解点数が研修前(2.9点)から研修後(3.8点)へ上昇した(図3)。
- 3) 自由記述  
\*他分野の内容が理解できて良かった。

です。共通認識はできたと思います。  
\*FDの目的としては、共有で終わっていたと思う。実際の各科目の整合性の確認や基準・方針については、明らかになっておらず、次回FDでの評価につながるかが不安となった。  
\*同じテーマなら間をあげずに実施した方が良いのではないかと思いました(前回の内容が思い出せない)。



\*今後の教育内容や教育方法を検討する動機づけになった。4年間で到達できる知識・技術・態度について検討を継続していく必要性が明確になったので良かった。

\*教育内容の重複を協議するためには、今回の資料では無理があったと思います。関連科目の内容が分かりませんので、それが1つ課題ではないか。

## 考 察

本学の「口腔から全身の健康を目指す」という一貫性のあるFD計画を進めていくことは、大学として今後も継続していくべきものであり、全教員が一丸となって取り組めるテーマである。

FD計画を立案する際に、その大学・施設の教員の能力やニーズを評価して、効果的な方法を検討するFDマザーマップ<sup>1)</sup>を用いて、本学のFDニーズを考えるとともに本研修を振り返る。

本学のFD研修は、毎回ほぼ全員の教員が参加し、看護学の本質的理解や興味関心は、多くの教員が備えていると考える。

「教育」マップにおいては、本学は、開学以前から口腔に関する教員への研修を数多く実施し、全教員が協働して教科書を作成するなど、全体的にレベルアップが図れている。本研修においても、口腔に関する教育カリキュラムの構築に関して共通の認識を持つことができていたと考える。今後は、各教員が実践する教育の整合性や順序性といった教育全体の評価を重ねつつ、すでに構築している口腔から全身の健康を目指す教育カリキュラムの充実を目指してFD研修の計画を立案していくことが今後の最も大きな課題である。

「研究」マップにおいては、口腔に関する研究が大きく比重を占め、成果を生んできているが、本研修でもその研究成果を教育に還元することや、それぞれの研究の関連性や、成果の普及などが今後の課題であり、令和3年度に開設予定である大学院においては、口腔から全身への健康に関連した看護をさらに進化させた教育・研究を進めていくことも求められている。

「社会貢献」マップは、地域に根差した活動を積極的に行っている本学の特徴もあり、FDニーズと

して必要とされるレベルに達していると考えられる。

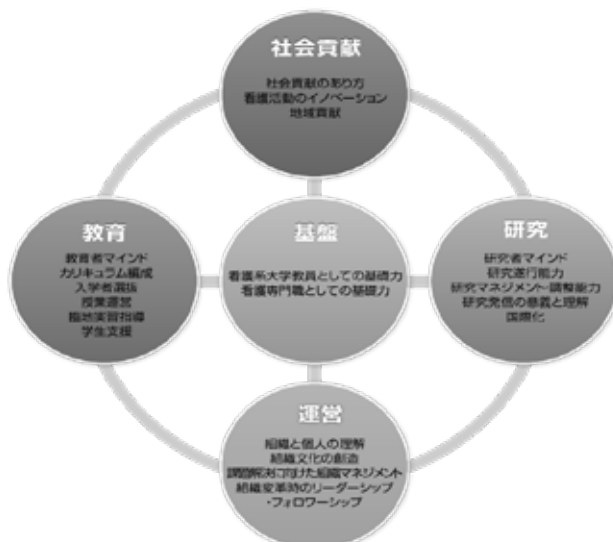


図4 FD マザーマップ®の全体構成®

5つの区分、すなわち「基盤」「教育」「研究」「社会貢献」「運営」から構成されている。看護系大学教員に求められる「能力」の要素が示されている。

今後は、地域におけるリソースとして「口腔医学を取り入れた看護学教育実践」をする看護大学がより活用されるように取り組む必要がある。

本学は、一人一人の教員が、大学のミッションや組織を理解できており、FD研修への積極的な取り組みを継続できている。「基盤」マップ、「運営」マップにおいては、看護系大学教員としてのキャリア、レベルアップを図りつつ、学独自の文化を歴史とともに作り上げていくことが課題であると考えられる。

本学が、一貫したFD研修を進めていることや全ての教員が同じ目的に向かって取り組んでいることは、「看護系大学FD企画者研修」<sup>2)</sup>においても多くの称賛と支持を得ている。

今回は、「口腔医学を取り入れた看護学教育実践」をテーマとしたFD研修全3回の一部分のみの報告となったが、完成年度を迎えた後に、これまでの本学の口腔医学を取り入れた看護学教育実践のFD研修については、取りまとめて報告する予定である。

研修後の自由記載にあるように、一度のFD研修で理解が深まらないような大きなテーマであることから、時間的にも戦略的にもまだ充実した研修となっていない側面もあり、多くの検討課題もあるため、これからも引き続きより効果的で実りあるFD

研修を目指して検討していく必要があると考える。

## 引用文献

1) 看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター 看護学教育における FD マザーマップの開発と大学間共同活用の促進プロジェクト(平成30年3月28日): 看護学教育の継続的質改善 (CQI:Continuous Quality Improvement) モデル開発と活用推進プロジェクト看護学教育における FD マザーマップ® 活用ガイド Ver.3,

[https://www.n.chiba-](https://www.n.chiba-u.jp/center/static/pdf/network/report_fd_v3_jp.pdf)

[u.jp/center/static/pdf/network/report\\_fd\\_v3\\_jp.pdf](https://www.n.chiba-u.jp/center/static/pdf/network/report_fd_v3_jp.pdf)

(2020年12月4日)

2) 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター (2019年11月27日): 看護系大学FD 企画者研修 FD 活動状況教育,

<https://www.n.chiba-u.jp/center/training/fd.html>

(2020年12月4日)

資料1

### 口腔医学を取り入れた看護教育実践の課題解決に向けた方略

( OO ) 看護学分野

科目	課題	方略
OO看護論演習	高齢者の口腔乾燥症、嚥下困難などはイメージし辛い。	・学生自分が体験できる方法として、オブラート等の使用や、より多くの事例を活用する。 ・嚥下困難の体験は危険であるので実践でなく、開口したままや舌を動かさず嚥下させるなど、イメージできる方法を選択する。
OO看護論演習	看護の他領域、歯科医師、歯科衛生士が担当している講義、演習との重複や順序性を把握し、効果的な方法を実践する必要がある。	現在、歯科衛生士の口腔ケア実践演習と摂食嚥下認定看護師の講義より後に、口腔ケア演習を配置するように講義順序を調整している。今後も継続する。
OO看護学概論 OO看護論 OO看護論演習	義歯の取り扱い、洗浄など、高齢者に特有の口腔ケアについてより精選したうえで教育する必要がある。	・義歯の着脱、義歯の管理、洗浄方法など、ポイントを絞った学習内容とする。 ・義歯の紛失や破損など、座学で学ぶべき内容、義歯モデルを触って洗浄の体験をするなど、演習で実践する内容を分類・整理して講義内容とする。

# Report on Faculty Development Training for Nursing Education Practices Incorporating Oral Medicine

Mami Miyazono<sup>1)</sup>, Hidechika Iino<sup>2)</sup>, Tsuyako Ookubo<sup>3)</sup>, Kaoru Shimada<sup>3)</sup>, Rie Iwamoto<sup>2)</sup>,  
Setsuko Murata<sup>2)</sup>, Fuyuko Nakashima<sup>2)</sup>, Yumi Kuranari<sup>2)</sup>, Maki Miyoshi<sup>3)</sup>,  
Kimie Machishima<sup>1)</sup>, Keiko Miyasaka<sup>1)</sup>, Kazuyuki Akinaga<sup>2)</sup>

*1) Fukuoka Nursing College Faculty of Nursing Division of Community Health and Home Care Nursing,*

*2) Fukuoka Nursing College Faculty of Nursing Division of Support Nursing*

*3) Fukuoka Nursing College Faculty of Nursing Division of Basic Medical Sciences and Fundamental Nursing*

*4) Fukuoka Nursing College Faculty of Nursing Department of Nursing*

Key Words : oral medicine, FD training, nursing education, practice nursing education, oral care

In order to effectively practice the "nursing education practice that incorporates oral medicine" advocated by this university in the field of education, the FD Committee has systematically conducted Faculty Development (FD) training. FD activities are an important tool for qualitative improvement of education and human resource development, and the results are visualized and shared by the entire faculty to be utilized in practice. In order to achieve the university's goal of "nursing educational practice that incorporates oral medicine," faculty members must work together as a unit to achieve the same goal, and FD training is essential to realize this goal.

This article reports the content and evaluation of three FD trainings on the theme of "Nursing Education and Practice in Nursing with Oral Medicine" and identifies the challenges for future education.